

総務委員会

令和5年3月16日（木）
午前9時58分～午後0時15分
議会第1会議室

【出席委員】宮崎 健委員長、藤田佳典委員、中村宏志委員、重松 徹委員、
堤 正之委員、江頭弘美委員、黒田利人委員

【欠席委員】富永明美副委員長、白倉和子委員

【委員外議員】なし

【執行部出席者】

- ・国スポ・全障スポ推進部 鶴国スポ・全障スポ推進部長
 - ・地域振興部 宮崎地域振興部長
- ほか、関係職員

【案 件】

- ・付託議案について

○宮崎委員長

若干早いようですが、これより総務委員会を開催いたします。

白倉議員が欠席、富永副委員長が午前中欠席ということで連絡が入っておりますので、御報告申し上げます。

それでは、国スポ・全障スポ推進部に関する議案の審査に入りますが、執行部におかれましては限られた時間で集中的な審議が必要ですので、簡潔な説明を心がけてください。特に当初予算は非常にボリュームが大きいので、経常的な経費については主なもの、前年度と比較して大きく変わったものを中心に説明をお願いいたします。

また、答弁は役職にかかわらず、質問に対して回答できる方がされますようによろしくお願いいたします。

それでは、国スポ・全障スポ推進部に関する議案の審査に入ります。

第1号議案について執行部に説明を求めます。

◎第1号議案 令和5年度佐賀市一般会計予算 説明

○宮崎委員長

ただいまの説明について、委員の皆様から御質疑をお受けいたします。御質疑がある方は挙手をお願いいたします。

○堤委員

九州大会、それから全国大会規模の大会があるということで、競技数は書いてありますがけれども、こういったものがあるか、何かそういった整理した表はないんですか。

それから、先ほどの負担金関係もずっと羅列されましたけれども、それも何か表になっ

たものはないんでしょうかね。ちょっとこれだけで言われても、何のことやらちっとも分からなかったの。すみません。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

リハーサル大会のスケジュールにしたものは資料としてございます。提出しようかどうかちょっと迷いましたけれども、議案として承認されていないものでもありますので、あんまり詳しいものを出すのもどうかと思って今回出さずにおりましたが、資料としては既にありますので、速やかに提出したいと思います。

負担金の内訳につきましても、併せて資料として提出いたします。

○鶴国スポ・全障スポ推進部長

実は、リハーサル大会ですね、まだ詳細が決まっていない競技もございまして、そこも含めて今議会の終了日に一覧表として全議員にお配りしようということでは考えておりましたけれども、議案説明資料ということで御依頼を受けましたので、今日中に提出させていただきますと思っています。

○黒田委員

要するに、これは決めていただくね、要するに、ここで議論するわけだから、何か間違うとらんですか。はっきり言うて。そういうのを提出しないと、たつたつたつて言うただけでも誤解を招いたりすることがあるわけですよ。

それはやっぱり出すものは出して、これはまだ確定ではありませんとか、そういうことで示さないといけないと思うんですよ。委員会は、今後そういうことでしてください。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○藤田委員

ボランティアの募集をされていると思うんですけども、まだ運営ボランティアは募集開始されたばかりと思うんですけど、総数として何名ぐらいを予定されているのかと、今現在どのぐらい手が挙がっているのかというのは分かりますか。

○国スポ・全障スポ総務課職員

現在、市民運動ボランティアと広報ボランティア、そして、協議会運営ボランティアの2種類がございまして、広報ボランティアのほうは約80名でございます。

競技運営ボランティアのほうは3月1日から募集を開始しまして、約120名ほどの登録がありました。上限を決めているということではないのですが、必要数としては、協議会運営のほうは延べ人数でおよそ1,500人程度ではないかと思っています。以上でございます。

○宮崎委員長

そしたら、今、委員のほうからもちよっと上がりましたが、その資料がないと審議ができないという声が上がっておりますので、早急にその資料を用意していただいて、どのぐ

らの時間で資料の提出はできますか。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

それは紙で提出するんですか。データで提出するんですか。

○宮崎委員長

取りあえずは、まず紙で結構ですので。審議が必要と言っていますので。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

すぐ事務所に戻って準備はできますので。

○宮崎委員長

そしたら、この後、地域振興部の審査がありますので、その後にその資料をもって、また再度質疑させていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか、委員の皆様。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それでは一旦、執行部の職員の方は退室されて、準備していただければと思います。

◎執行部入れ替わり

○宮崎委員長

それでは、地域振興部に関する議案の審査に入りますが、執行部におかれましては、限られた時間で集中的な審議が必要ですので、簡潔な説明を心がけてください。特に当初予算は非常にボリュームが大きいので、経常的な経費については主なもの、前年度と比較して大きく変わったものを中心に説明をお願いいたします。

また、答弁は役職にかかわらず、質問に対して回答できる方が速やかに答弁されるようお願いいたします。

それでは、地域振興部に関する議案の審査に入ります。

まず、第31号議案について執行部に説明を求めます。

◎第31号議案 佐賀市公民館条例の一部を改正する条例 説明

○宮崎委員長

それでは、第31号議案ですけれども、ただいまの説明について委員の皆様からの質疑をお受けいたします。質疑のある方は挙手をお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかに質疑はないようですので、次に、第32号議案について執行部に説明を求めます。

◎第32号議案 佐賀市体育施設条例の一部を改正する条例 説明

○宮崎委員長

ただいまの説明について、委員の皆様からの御質疑をお受けいたします。質疑のある方は挙手をお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ほかに質疑がないようですので、次に、第1号議案について執行部に説明を求めます。

◎第1号議案 令和5年度佐賀市一般会計予算 説明

○宮崎委員長

ただいまの説明について、委員の皆様から御質疑をお受けいたします。御質疑のある方。

○黒田委員

6番の20ページのバルーナーズの関係ですが、4番の経費の内訳で委託料5,120万円とあるんですが、この委託料の内訳は分かるのかな。

○スポーツ振興課職員

委託料の内訳ということですが、まず、右側のアリーナオープン記念事業ですね、ホームゲーム割引チケットの経費、それから、バスケットボール体験イベント……

(発言する者あり)

すみません。この合計金額5,308万1,000円のうち、報償費に当たる経費が佐賀バルーナーズ連携交流事業のホームゲームのスポンサー協賛、ここで市民招待やイベントとして市民の方に景品などをお渡しする分として、47万6,000円を使用する予定としております。

また、需用費として10万5,000円計上しております。こちらの分につきましても……

○江川スポーツ振興課長

先ほどの経費の説明なんですけど、報償費につきましては、そういうマッチスポンサーのときとかの市民向けの商品、プレゼント等ですね、そういったものを予定しております。

それから、需用費につきましては、もろもろ消耗品ですね、いろんな印刷とか、そういったものになりまして、それ以外が委託料になります。

それから、4番の経費の一番下に書いてある県プロバスケットボール振興協議会の負担金、こちらは佐賀県全体で協議会をつくっております、佐賀市としての負担を行って、オール佐賀でバスケットボールを普及していこうというような負担金であります。それ以外は委託料になります。この右側の事業のほうに個別に挙げておりますけれども、大体ほとんどがそれぞれ委託料として支出するものでございます。

○黒田委員

要するに、事業を行ってチケット販売とかするですね。どこに委託するのかな。委託先は。

○江川スポーツ振興課長

イベントにつきましては、市内のイベントの企画業者等になりますし、チケット販売等につきましては、当然バルーナーズのほうでチケットを扱っておりますので、バルーナーズのほうに委託するというようなことになります。

○黒田委員

バルーナーズに幾らぐらい委託料で払うのか、その内訳を分かれば。

○江川スポーツ振興課長

これからバルーナーズのほうと、年間にもろもろの事業に向けて契約等を行っていきま

すので、どのくらいという金額は今はっきりは分かりませんが、バルーナーズしかできない部分というのはございますので、そういった部分はバルーナーズに委託させていただくと。

○江頭委員

今の関連なんですけど、あなたたちは5,120万円委託料として組んでいるじゃないですか。さっき企画会社で、佐賀広告社かどうか知らないけれども、その名前もちゃんと教えてください。そのために予算を上げているんでしょう。だから、その割合、バルーナーズの会社に幾らと、そういうことをきちっと言わないと、ここに予算を上げているんだから、もうできているんでしょう。今、黒田委員が言われた割合の部分は、これを何か曖昧にして、今からですなんていう話はないでしょう。

○江川スポーツ振興課長

右側の項目の中でバルーナーズにお願いする部分でございますけれども、ホームゲームチケット割引、チケット販売ですね。それから、B2プレーオフの市民招待と、その下の連携交流事業の中でのゲームスポンサー協賛分と、1つ飛びまして、子育てママのスポーツ教室の部分、佐賀バルーナーズ夢先生の部分、それから、アウエー戦パブリックビューイングの部分です。こちらがバルーナーズにお願いする予定の分です。

○江頭委員

それで、総額、アバウトでいいからどのくらいの割合になるかということ。

それと、あとは企画会社なんですよ。

(「そう」と呼ぶ者あり)

だから、その割合はどのくらいになっているかと、アバウトでいいですから、大体どのくらいという質問なんです。

それと、その他の参考となる事項の事業費、合計5,300万円上がっているわけですね。これは全部委託料じゃないですよ。委託料は5,120万円ですよ。この違いというのをも説明してください。

○江川スポーツ振興課長

4番に経費の内訳をお示ししております、委託料が5,120万円になります。それ以外については、こちらでお示ししている分、報償費、需用費、振興協議会への負担金となります。

○宮崎委員長

そしたら、まだ出らんとでしょう、割合。どうですか、出ますか。

○スポーツ振興課職員

すみません。4,720万円がバルーナーズに……

○宮崎委員長

ちょっと時間を取りますので、きれいに精査して出してもらってよかですか。

○江川スポーツ振興課長

大体、割合としては92%となります。

○堤委員

僕も理解がちょっと追いつかなかったのであれなんですけれども、そもそも論として、これはアリーナのオープンの記念事業で、バルーンズを使って佐賀市が主催して、丸々お金を出してやってイベントしましょうというものなんですか。従来は、バルーンズが試合をやったり、事業をやるところに対して、うちがチケットを幾らか買うとか、一部割引してあげるとかいう一部補助だったでしょう。これは違うんですね。これは丸々全部うちが主催で、チケットも責任持って全部買っちゃったようなもので。そして、それはバルーンズが売って客を集めて、それでやりましょうという佐賀市のイベントですね。そういう認識でいいですか。

○江川スポーツ振興課長

はい。佐賀市のイベントや佐賀市の事業としてですね。

○堤委員

こういったものは、これからもあり得るんですか。こういう丸々抱えでやるようなことは。これはオープニングの特別イベントだからやるわけですね。そうじゃないですか。それとも、今後もこういったものはあり得るといふうに市のほうはお考えなんですか。ちょっとそこを教えてください。

○江川スポーツ振興課長

従来のバルーンズの連携事業に加えまして、今回、アリーナオープン記念事業として、来年度にこの分をお願いしているものでございまして、基本的にオープン記念事業として考えております。

○堤委員

そういった特別のイベントとして、ほぼ丸抱えでうちがスポンサーということで、これだけのお金を使ってやるということですね。そう理解してよろしいですね。

○江川スポーツ振興課長

はい。その理解で結構でございます。

○黒田委員

今までも、令和4年度でよかけん、バルーンズ関係はどのくらい金額的に予算は出しとったかな。ちょっと参考のために。

○江川スポーツ振興課長

令和4年度の予算といたしましては、2,800万円ほどです。

○黒田委員

そしたら、通常であれば令和6年度から、特別に何かなければ2,800万円ぐらいでずっといきますよという感じかな。それでいいかな。

○江川スポーツ振興課長

すみません、先ほど2,800万円と申し上げましたけれども、3番の事業費の中に令和4年度の前年度の事業費を記載しております。2,563万円でございます。

○宮崎委員長

ほかに。

○重松委員

地域振興部の4の資料ですね。これは歴史まちづくり推進事業ということで松原公園の整備事業ですけれども、これはたしか鍋島報効会の土地を借りて公園整備をされたんですかね、前ね。懇話会が始まって、もう5回されていますけれども。

その中で、今説明がありましたけれども、このブルーの線のエリアの中でにぎわいの店づくり、仲見世通りかな、何か言われたんですが、それも一つの構想になっているみたいですが、ここにもともと松原マーケットがあって、今取壊しになっていますけれども、あそこの手前に鶴乃堂かな、まんじゅう屋、肉まん、あそこは行列ができそうですもんね。

そして、あそこの社長が鶴野という方で、私ちょっと親しくしていますので言われたんですけれども、うち1軒だけじゃどがんもできんばいと、どがんじゃい、あそこんにきまちづくりをしてくれんぎんと。

その話の中で、この地区はやっぱり歴史があるけんですね、鍋島報効会とか佐嘉神社とかですね。昭和レトロみたいな感じで、何か駄菓子屋とか昭和時代の、中身は現代風だけけれども、そういったまちづくり。それで、前は屋台とかなんとかも佐嘉神社の東側にあったですもんね。そこも結構にぎわっていたということで、そういったにぎわいの仲見世づくりごたつのできんやろうかという話をちょっとしたことがあるんですけれども、その懇話会の中でそういった話は出ていますかね。

○小林歴史・文化課長

第1期整備のときは、議員御指摘のとおり、佐賀市が鍋島報効会から土地をお借りして、借地公園として整備いたしております。

それから、懇話会の中での意見としまして、地域振興部4の2ページ目になりますけれども、いただいた御意見の中で、松原公園周辺のまず将来像のほう、一番上ですけれども、キーワードの中ににぎわいの創出というキーワードが出ておまして、その中で、やはり今、松原マーケットで御活躍されている方もどうするかとか、そういった御意見もいただいております。

今回、将来像を今年度をめどに策定させていただくんですけれども、今後、来年度ですね、予算をつけていただきましたら、基本構想を策定していきたいと思っておりますので、その中で、そこがどういった雰囲気のにぎわいといいますか、例えば昭和レトロであったりとか、そういった雰囲気がどういうふうなものかというのを構想の中でも検討

していきたいというふうに考えております。

○江頭委員

1点だけ。今、懇話会の中で、次の構想で整備する、その土地の購入ということは考えられていないんですか。その1点。

○小林歴史・文化課長

前回、研究会のとき等にも御説明させていただきましたが、その辺りを決める前に、まず、皆さんで将来像を決めた上で、令和5年度から基本構想を策定していく中で、役割分担であったりとか、それから、その選択肢として、市が購入するのか、お貸しいただくのか、そういったことも検討していきたいというふうに考えております。

○江頭委員

いや、整備をやる上において、まず、これは佐賀市が主体となってやるわけですよ。松原公園。ですから、うちの土地、もうほとんどないわけですよ。あと県有地だけですよ、求めると言えば。

だから、私はそのことを言っているんですね。だから、県が入って、いや、ここは県もそれなりのお金を出しながら整備していきますよという話であればいいわけですよ。しかし、みんな借地的な公園になっていくんでしょう、全体的に。しかし、あと、いや、これは佐賀市が購入してくださいとか、一番問題は徴古館の裏の、僕はその部分を想定しているんですけど、どの辺りまで県がここに携わってくるかという問題というのは非常に大事だと思うんですね。一番問題はその土地の購入。

だから、その辺りは早く、僕はここの中に、今後の予定の中に土地購入という部分もなかったからですね。どこら辺りでこの問題が発生するのかなと思って聞いていたんです。

○小林歴史・文化課長

今後の予定のところ、令和5年度、丸の一番下のところに、土地所有者との協議調整ということで書いておまして、その辺りは基本構想で検討していきたいと思えます。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○黒田委員

それでは、資料3の490ページの桜マラソン負担金1,040万円かな。佐賀新聞とか、陸連とか、神崎市と言われた、その内訳は分かるか。ほかのところの負担金のあれは分かれますか。

○江川スポーツ振興課長

負担金の総額は5,200万円となっております、県が3,900万円、佐賀市が1,040万円、神崎市が260万円になります。

○黒田委員

佐賀新聞社とかは出さないのかな。佐賀新聞社が何か主催されているような状況に、あ

の大会があるんですね。ちょっと見るにね。そうすると、それはもちろん、自治体から負担金を頂いてはいいけれども、本体の佐賀新聞社とかね、そういうのも負担金を出してすべきではないかなというふうな気がすつとぼってん、そういう点はどがんでしょうかね。

○スポーツ振興課職員

企業からのスポンサー収入を佐賀新聞社のほうで集めていただいておりますし、あと、佐賀新聞社の職員が事務局として数名、職員として従事していただいておりますので、そちらのほうで負担していただいているところです。

○黒田委員

事務局があるからということじゃなくして、さっき佐賀新聞社が企業を集めていると。総額は大体どれくらいになるのかな。令和4年度でよかけんさい——令和4年度というか、前の通常開催したときの、令和元年から2年かな。

○宮崎委員長

分かりますか。

○黒田委員

大体でよかさ。幾らぐらいという形で。大枠で。

○スポーツ振興課職員

企業の協賛金の決算が180万円になっております。

○黒田委員

なぜ聞いたかという、要するに、何人かの方もそうでしたけれども、参加費が高いという話があるわけですよ。今年1万5,000円かな。若干人数も減っているのかな。9,000名ちょっとかなという感じでね。高いからもう出場しないという人が何人か聞いたんです、私ですね。もともと出ている人が。だから聞いたんですよ。

そしたら、考えたら、要するに、県と市と神崎市と、自治体でしている。一番よかところは佐賀新聞社。人間は出していただいておりますよ。それは分かるんですが、やっぱりそこんたいの見直しして、なるだけ参加者からの参加費を安くするような方法をしていかないと、だんだん、せっかく1万人以上の人走っていたのに、9,000人、8,000人ということになっては、せっかくの大会が盛り上がらないので、そこんたいについては課題として十分検討してもらうように、実行委員会かどうか分からんけれども、そこで市としても強力に、そういう意見もあったということ伝えていただきたいと思います。

○宮崎地域振興部長

御指摘のとおりだと思います。今回、一般質問でもありまして、答弁させていただいているんですけれども、今までは、コロナのことはもちろん影響はあると思うんですね。全国的に定員割れという状況がありましたけど、やっぱり御意見の中にも参加料が高いという御意見はあったみたいですので、それで、もともと1万人のランナーの参加費を取る前提で今回予算を組んでいましたので、今年度ですね。その中で不足分をどういうふうによ

りくりするののかということで大分協議した経緯がありますので、今回のことを踏まえて、次年度以降はどういうふうに経費を縮減していくのかとか、負担金はどうしていくのかということ振り返りをきちんとやって、来年度に向けてやっていかなきゃいけないというのは私も思っているところですので、私もその役員の会議に入っておりますので、皆さん方からの御意見はお伝えしていきたいと思っています。

○宮崎委員長

ほかに。

○堤委員

先ほど黒田委員が質問された部分について、私も全くそう思うんですね。私たちも実はバルーンフェスタという大会をやっているじゃないですか。僕らだけでも毎年6,000万円集めるんですよ。180万円なんて、くそみたいなことを佐賀新聞社が言うたらいかんですよ。本当に思う。

そこはやっぱり佐賀県を代表する新聞社で、こういったものを主催される、その看板の名前に恥じないようなことはちゃんとやらしてもらわないと、何かもう、行政が金を出さからそっちに任しとっていいしとかね、仮にそういうふうなお考えになったり、人手がおらんから、そがんしきるもんかと言いながらもやっているような形であればね、やっぱりこんな大会は長く続きませんので、そこはきちっとですよ、長くやるための仕掛けづくりというのを一度ぜひ議論いただかないとまずいなという気がしますよね。それが1点。

それからもう一つ、先ほどの165ページのところの徴古館の件なんですけれども、私も過去に2回か3回、何年置きかに質問しているんですが、本当にこの十数年間、遅々として進まないということなんですけど、懇話会を3年前立ち上げていただいて御議論いただいているということなので、ただ、やっぱりピッチが遅いですよ。

それで、ここは特にメインのところ、鶴乃堂と前の何とかという方と自治会長されているたばこ屋のおじさんと、3軒しかないでしょう。お三方の御意見というのは何か聞かれているわけですか。

○小林歴史・文化課長

ここ最近で、市が直接、御意見を聞いたということはありません。ただ、ちなみに3軒のうちの1軒は既に取り除かれておりますので、松原マーケットはあと2軒になっておりますが、以前、報効会のほうで御意見を聞かれたときには、重松委員が言われたように、ここにもしにぎわいの施設ができるとしたら、そこに入った形でまちづくりに貢献したいというような御意見はお聞きになっているということはお聞きしております。

○堤委員

そうだと思いますよ。以前の執行部の答弁でも、例えば鶴乃堂とか、のびとか、ああいいう非常に有名な繁盛店で名物のお店をね、わざわざ出ていけなんて言う必要も何もないわけで、あそこに飲食のゾーンをつくるとか、今度の県庁前のあそこだっけキッチンを入れ

ていますでしょう。ああいった形も含めて人のにぎわいというのをつくっていかないといけませんから、当然そういったことをするというふうに、もう数年前にも市はおっしゃってましたよね。

だから、懇話会のメンバーがどうのこうのとは言いませんけれども、もう少し経済面とかなんとかも含めたね、本当ににぎわすためには、やっぱり食とかイベントとか、そういったことが分かるような人たちね、こういったせつかく、いわゆる真っ白いキャンパスの部分があるので、ここで何を描こうかというのをですよ、やっぱり歴史に造詣のある先生方ばかりでお話しされてもね、僕はちょっと違うんじゃないかなという気がするんですね。やっぱり歴史豊かな場所のしかも中心にこれだけの場所があるんだから、ここをどうこれから未来に向かってキャンパスとして絵を描いていこうかという話をいろんな角度から議論できる方を少し加えられてしたほうがいいんじゃないですか。そうしないと、これは恐らくそうはならないですよ。このメンバーには申し訳ないですけどもね。本当に経済界の方とか、そういった方も含めて、多種多様な意見でやっていかないと駄目じゃないかなと思うんですけどね。そして、もうちょっとピッチを上げましょうよ。もう残っていらっしゃるのは、たった——たったと言っちゃ失礼だけど、その2軒だということですし、気持ちとしてはもう皆さん腹決まっとんさっじゃなかですか。逆に生殺しですよ。こんな状態でずっと、あと2年、3年と、まだこの調子でやっていかんばいかんと。先ほど重松委員のお友達の鶴乃堂さんがおっしゃったというけんね、そりゃそうですよ。1人になってさ、繁盛しよつと言いながらもね、あの状態でさ、1人で何か粘ってあそこに居座っているふうに言われてしまうのは堅苦しいでしょうし、逆にね、本当に早く気持ちを一緒にして、場所の移転とかやったほうがいいんじゃないですか。

何でこんなに時間がさ、年に2回ぐらい会議して、さあ、今度は何を考えましょうかねとか、そんなこと言っているようなタイミングじゃないと思うんですけども。十数年たっていますよ、私が質問してからね。

だから、幾ら報効会が云々と言われても、もう市としてはここを都市公園にしたいんだという、借地公園にしたいんだという明確な意図があるんですから、であれば、それをやっぱり言ってですよ、もうじきですよと、やるなら今でしょうという話をぜひやっていただきたいんですけどね。こんなに時間がかかるもんですか。本当に理解できない。答弁をお願いします。

○小林歴史・文化課長

懇話会を設置して、確かにもう2年近くたっておりまして、ピッチを上げないといけなかなというふうに思っておりますが、委員構成としては、やはりまずは大きな将来像を決めていくことですので、地権者にはぜひ入っていただきたいと思っておりますし、そのような経緯でこのメンバーになったということもあります。

ただ、来年度ですね、次のページ、裏面、2ページになりますけれども、令和5年度の基

本構想を策定していく中では検討会議も設置したいと思っております、これは地権者等も加えての形になるかと思いますが、それに加えて、先ほど委員から御指摘ありましたようなあらゆる分野の方、それとか地元の方ですね、そういった方も入っていただきながら検討していきたいと思っております。スピード感を持ってやっていきたいと思っております。

○堤委員

もう一言言わせていただくと、さっきから、これからいろんな方の御意見をまとめながらとおっしゃるけど、まず、佐賀市として、ここにこれだけのお金と時間を費やして何かやろうというんだから、佐賀市としてはこんな形をしたいんですというのはないんですか。真っ白なの。そんなことはないでしょう。そんなことはないでしょうもん。大体こちら辺まではこういうふうにして、どうのこうのから始まって、基本のものはあるでしょう。それをさらに味つけするのがそういった外部の方々の御意見でしょう。

聞いていると、いつまでたっても真っ白けというのは、じゃ、どんなものができるか分からなくてもお金を出すんですか。そんなことはないでしょう。ここに書いてあるように、歴史と文化を生かしたまちづくり、これの言葉に乗っちゃえば何でもいいですよという話なんですか。違うと思いますよ。やっぱり佐賀市がきちっとして、大体こんなもんがいいんだけどなというものを示しながら皆さんの御意見を聞いて、いや、もうこれからの時代こんな入れようとか、こういう要素を加えようというふうにならないと決まりませんよ。これは部長、よく分かるでしょう。

本来、行政としてリードしてやっているんですから、まず、市はこんなことを今考えていますということをお示しいただいて、それに対して各造詣のある皆さんから御意見をいただき、よりよいものにするという方向性に持っていけないといけないと思いますが、どうでしょうか。

○宮崎地域振興部長

御指摘ありがとうございます。本当に時間がかかっているということは、ほかの委員からも言われていることですので、私自身もそういうことだなというふうに思っております。ただ、懇話会については、本当にスピード感がないというふうに思われて、メンバーがメンバーですので、なかなか頻繁にできなかったというところも正直あります。

それともう一つは、どなたかおっしゃったように、市の土地がここはないですね。やっぱり地権者の意向は無視ができないので、まず、きちんと地権者の意見を聴きながら構想をまとめたいというのがあります。

ただ、ちょっと関連として、例えば、今話が出ているのは松原川の整備ですね、平成の初めぐらいにやっていますけれども、もう大分たってきているので、その辺りも含めて考えたいとか、そういうことはありますので、来年度、庁内的にも少し、関係課が集まった会議とか、そういうのも開きながら、検討委員会を外部の方ですけど、一緒にやっていきたいと思っておりますので、確かにいろんな人がいろんな意見を言うと全然まとまらないと

いうことになってくると思いますので、そこはきちんと佐賀市としての考えも出しながらやってまいりたいと思います。

○堤委員

図らずも、先ほどおっしゃったような松原川について、ぜひ治水も考えて、全体的な中での位置づけをきちっとしていただかないといかんでしょうね。そうしないと、公園も生きなくなりますのでですね。これについては、ぜひそういったことでスピード感を持っていただいて、とにかく半年に1回とか、1年に1回ぐらい行って、どうなんですかねとか、そんな話じゃなくて、もうここまでは決まっているんですから、予算をつけたんだから、ピッチを上げてぜひやってください。お願いします。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○江頭委員

3番の資料の163ページの中山間地域振興事業の件で、2点質問させていただきます。

1つは設備等整備委託料、これは552万4,000円上がっていますが、説明の中では山村広場の看板という説明だったと思うんですけど、これは具体的にどういう看板でこの金額が出ているのかですね。何か所もあるのか、1か所なのか、そういうところを具体的に説明を1点お願いします。

それからもう一つ、集落支援等業務委託料、これは768万4,000円上がっていますが、これは富士と三瀬と松梅、3地区だったですよ。今回から富士はまちづくり協議会に委託するという事なんですけれども、この割合、三瀬と松梅は違うところに委託ですよ。何か僕、その辺りがちょっと分からなかったから、この3地区の割合がどのくらいになっているのか、この2点。

○筒井地域政策課長

設備等整備委託料に関しましては、山村広場が国スポでラグビーの会場になりますので、県の補助金を活用しまして、今の看板を新しくするという……

(発言する者あり)

今3か所、山村広場までの看板がついているんですけども、昔の協立病院、分かりますか。あれのほうから右回りで山村広場に案内するような看板が3か所ついているんですけども……

(発言する者あり)

そうです。道に立っている看板を、これは金額が実は350万円ぐらい佐賀古湯キャンプの施設の維持管理費も入っているもので、その残りが看板の更新になります。

○江頭委員

350万円が山村広場の施設整備費や看板。この550万円の中に350万円が山村広場の設備で、あとが道路標識みたいなのが3か所ある、その建て替えということですね。

○筒井地域政策課長

550万円のうち、350万円が佐賀古湯キャンプですね、校舎を改修、あそこの年間の維持管理費になります。残りの200万円が看板のかけ替えの金額になります。

それともう一つ、集落支援の業務ですけれども、富士地区が富士のまちづくり協議会に頼んでおります。三瀬と松梅を、三瀬にごぞいますNPO法人ムラークという地域づくり団体に頼んでおります。

集落支援業務自体は1か所当たり250万円程度で、合わせて250万円なんですけれども、富士のまちづくり協議会に1人コーディネーターを置いていますので、その方にも同額ぐらいを払っていますので、合わせて750万円程度の金額となっています。

○堤委員

さっきちょっと聞き忘れましたが、この165ページのところの地域づくりクラウドファンディング手数料助成金80万円と書いてありますけど、これはクラファンの会社に払う手数料を助成するということですよ。ということは、80万円というと、結構クラファンの手数料は高いんですよ。makeなんか17%か18%取りますもんね。2割ぐらいピンはねするんですよ。逆算すると、金額にすると、例えば予算500万円以下ぐらいまでの規模のものしか該当しないという想定なんですよ。それをちょっと確認。

○筒井地域政策課長

1件当たりの手数料の支援を20万円と考えております。4件分をここは想定しております。

○堤委員

募集金額を100万円ぐらい募集しますとやった分の手数料をとということですか。

○筒井地域政策課長

クラウドファンディングの集金の目標額はそれぞれお持ちだと思いますけど、佐賀市としては、20万円を上限に支援しますということで設定しております。

○堤委員

そうしますと、例えばその額が増えましたと、想定以上に集まって300万円売れちゃいましたと。かといって出す金は20万円しか出さないと、1件に対して。そういう理解でいいですね。

○筒井地域政策課長

そのとおりでございます。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○江頭委員

481ページ、東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業、これは説明はあったんですけど、令和3年から、本当にこれはネックは。こんなに進まない、そして、ずっとこういう金額が今後、今説明では本当にいつ、これがあれというのができないみたいなんですけ

ど、そこが確定していないみたいなんだけど、そのセンターの整備をいつまでにというのもないみたいですけど、何がネックになっているんですか。そして、毎年こういう委託料が発生していくわけ。もう一度具体的に説明をお願いします。

○木島文化財課長

まず、時間がかかっている理由は先ほどもお示ししましたけれども、今年度中に基本設計を取りまとめるスケジュール感で、整備指導委員会も含め、いろいろ検討を進めてきたんですけど、やはり建設費がここ最近の物価上昇でかなり金額が上がりそうな気配があるので、もう一度できるだけその金額をコスト縮減できる方法はないかというのを検討しているのにちょっと時間がかかっているのが1点。

それともう一点は、当初、基本構想から基本計画をつくるまでは、東名遺跡に興味がある人にどういう情報を提供していくかというようなところを中心に整理してきたんですけど、やはり公共施設をつくるに当たっては、興味がない方にとっても、ぜひ来ていただけるような施設を魅力的につくるためにはどうしたらいいかというのを併せて検討するように、整備指導委員会からの指摘もありましたし、市民ワークショップということで、市民の人たちと一緒に考える中でもそういうふうな声が出てきたこともあって、そこをどういうふうにしていくかというのを検討していく中で、ちょっと今年度中には取りまとめが難しいということで延びたという経緯があります。

委託料については、来年度に基本設計の延伸はしますけれども、当初、令和4年度の予算として組んだものの、今年度の出来高を引いた残りを来年度に予算化しているの、当初計画から大きく予算が膨れ上がっているということはありませんし、基本設計については来年度中に取りまとめをしないと、ちょっと時間がかかり過ぎているというのがございますので、そういうスケジュール感でいくということにしております。

○江頭委員

非常に慎重だと言ったら語弊があるんだけど、確かに今、資材が高騰して、なかなかこういう施設の建築に対しては、やはり非常に微妙なところがあるんですけど、普通、高騰している中でも建てていますよね。公民館も計画しながらずっと、いろんな。だから、東名だけ何でその意見が出てくるのかなというのが、私は説明の中で非常に納得できない。何でここだけがそうやって高騰しています。でも、ほかの施設整備なんて、年々上がっているんだけど、計画的に。私たちのときは資材が高騰しました、だから、建設費が上がりましたと、みんなそれですよ。でも、ここだけそうなんです。何かこれを、高騰資材を慮って止まっているような状態の説明なんですよね。原因が。だから、何で東名だけなのという素朴な疑問なんですよ。

○木島文化財課長

おっしゃることはよく分かりますし、私どももできるだけ早く、時間がかかってきているがあるので、造りたいという思いはあります。資材高騰も大きな要因の一つなんです

けれども、非常にこの施設自体が特殊な施設にもなっていて、1つは、東名遺跡から出土した遺物のかなりの点数が国の重要文化財に指定されていくような予定にもなっていて、それを収蔵する特別収蔵庫というのを造らないといけないんですけど、その要件が当初私たちが考えていたよりもかなり条件が厳しくて、お金がかかりそうなことを求められているということもあります。

それともう一つは、東名遺跡だけではなくて、埋蔵文化財センターも合築するというところで複合施設で考えているのもありまして、今、元の城西中跡地に文化財資料館という施設を造って、そこに大切な遺物を保管しているんですけど、それをこちらの新しい施設に持ってくるためには、やはりそれなりの収蔵庫の建設もしないといけないですし、それがかなりの量的なものもあって、それにも結構、高騰の分で影響を受けている分もありまして、そこをいろいろ検討していく中で、後戻りするつもりはありませんけれども、さらに前向きにいくためには、やっぱりしっかり今の段階で検討していくべきだろうということで、もう少しお時間をいただきたいというふうなことで、今回、改めての予算計上ということになっております。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○中村委員

ちょっと関連で、東名のところで、私が聞いている分では、橋とあそこのカーブの道路、あの辺の交通が危ないとかいう話もちょうと出ているんですが、そこら辺は何かお聞きされていますか。

○木島文化財課長

あそこはこれから県道が南のほうからずっと上がってきて、新設してあそこにつながるような計画になっていますので、今よりも交通量がさらに増える可能性もありますので、交通安全の確保については、横断道路だとか信号機だとかの設置も含めて、事故が起こらないような措置を県のほうとも協議しながら、あとは警察とも協議しながら整備するというようにしております。

橋については、橋を動かしてはどうかという話も地元の方からお聞きしている部分もありますけれども、国土交通省のほうで設置しているということもあるので、そこについては移設が本当に可能なのかとか、もともとは巨勢川調整池に入るために架橋されたという経緯もありますので、そこは少し国交省と協議できるのかどうか、ちょっと話をしていきたいというふうに今のところは思っています。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

○藤田委員

資料3の465ページ、市民芸術祭の開催費の補助金のところですけども、アリーナ等も

完成して、市民の方からの声でインパクトがあるというか、盛り上がるような企画を待っているという話がありまして、ぜひ市民が一体となってというか、参加してできるような企画というのを考えてほしいということも意見があったんですけど、その辺はどうお考えでしょうか。

○小林歴史・文化課長

コロナ禍もありまして、3年間ほど縮小した形で実施してきました。来年度は、予算も例年に比べると少し多めに計上させていただいておりまして、実行委員会のほうでも1月から新しい、来年度に向けて検討しておりますので、実行委員会のほうにそのようにお伝えしたいと思います。

○宮崎委員長

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ほかに質疑がないようですので、次に、第2号報告について執行部に説明を求めます。

◎第2号報告 専決処分の報告について 説明

○宮崎委員長

ただいまの説明について、委員の皆様から御質疑がありましたら挙手をお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ほかに質疑がないようですので、ここで退職される木島慎治地域振興部副部長から御挨拶いただきます。

◎木島地域振興部副部長兼文化財課長挨拶

○宮崎委員長

ありがとうございました。

執行部職員の方は退室されて結構です。

暫時休憩いたします。

◎午前11時59分～午後0時03分 休憩

○宮崎委員長

再開いたします。

それでは、国スポ・全障スポの審議に再度入りたいと思います。

そしたら皆さん、お手元に資料が出ておりますが、資料の説明をお願いします。

◎SAGA2024国スポ競技別リハーサル大会の概要について 説明

○宮崎委員長

ただいまの説明に対し、御質疑を受けたいと思います。

○黒田委員

かごしま国体応援ツアーは大体どのくらいの規模かな。

○国スポ・全障スポ総務課職員

かごしま国体応援ツアーは10競技程度、その開催地に人数が、1競技、約30名程度を想定しております。

○宮崎委員長

30人の10競技、300人規模です。

○黒田委員

私は自治会の役員をしているんですが、どこの校区は何の競技というようなことで話か何かあったような、ないような感じを私たちは何か、新栄はラグビーとかなんとか話があるような気がするんですが、そういう方の代表というか、どがんしていいのか分からんわけですね、そがん言われたっちゃね。そういうのも含めているのかな。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

実際、今、連携協定を結ばれているのは若楠と富士と2つですけれども、今後、ほかの校区も連携協定を結ぶかもしれませんが、そういった地域に限らず、先ほど言いましたように、運営ボランティアに登録された方々も応援ツアーに参加していただいて、実際、向こうでのボランティアの活動を見ていただくというようなことも含めて、この応援ツアーを企画しております。

ですので、全てその参加者は地域の方というわけではありませんので、そこら辺のバランスといいますか、どういう人を、どれぐらいの規模で連れていくというのは今後詰めていきたいとは思っております。

○黒田委員

要するに、今言ったように、本番になると、50年近く前は民泊をしてね、ずっとこう盛り上がったんですが、今度はちょっと、そういう民泊もあると思いますが、そういう規模と違うような感じがせんでもなかしき、わざわざ応援する、確かにそれは応援しなきゃいけないのは分かりますよ。地元も出ますし、うちはやっぱり佐賀工業高校がありますので、ラグビーというのはいいと思いますけれども、32校区があるわけでしょうか。そういう協定を結んだからとか、結ばないからという線引きを今後していくとかな。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

あくまでも、地域の意向がまず優先です。競技団体にもよりますけれども、あまりメジャーじゃない競技は国スポを契機に盛り上げたいというようなこともあって、いろんな形で周知していきたいという中の一つのやり方として、地域との連携協定というものがあると思っております。ですので、全ての校区がどこかの競技団体と連携協定を結ぶということは我々考えておりません。

ですので、たまたま新栄は佐賀工業高校のラグビーがずっと強いということもあって、地域ぐるみでラグビーを応援してみてもはどうですかというお声かけをしたことはあります

けれども、全ての地域に我々がそういう営業活動しているわけではありませんし、一つの例えとして、いろんな形で市民の方には関わっていただきたいと思っていますので、その一例として、こういう関わり方もありますけどどうでしょうかというお声かけをしたということでございます。

○黒田委員

要するに、実際に協定を結ぶような形になるとするならば、ある程度地域に浸透するためには、事前にいろんな催しもせんばいかんわけですよ、それに対してね。そういうときの企画との関わり、人との関わりはどがんするつもりかな。

○村上国スポ・全障スポ総務課長

そういう御相談には我々今までも乗ってきていますし、いろんな、我々ができることには十分支援していきたいと思っていますし、こちらのほうからこういうことをしてみてもどうですかというような御案内とかも実際していますので、そこはそれぞれの地域のほうといろいろ連絡を取りながらやっていますし、今後もそういうやり方で進めていきたいと思います。

○宮崎委員長

ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ほかに質疑がないようですので、これで終了いたします。

職員の方は退室されて結構です。

◎執行部退室

○宮崎委員長

それでは、委員の皆様にお諮りいたします。今回の付託議案の審査に関して、現地視察の希望はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

現地視察はないようですので、次回の委員会は明日17日金曜日午後1時半から、採決、まとめを行いますので、よろしく願いいたします。

以上で本日の総務委員会を終了いたします。